

受験番号

## 平成 27 年度 推薦入学試験問題

# 小論文

### 【注意事項】

1. この冊子には問題用紙と答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があれば、この冊子、問題用紙、答案用紙の受験番号欄（左上）に受験番号を記入しなさい。
3. 問題用紙には問題が 1～3 ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせなさい。
4. 解答は答案用紙の指定された場所に記入しなさい。
5. 問題用紙の余白は下書きに使用しても構いません。
6. 問題用紙を持ち帰ってはいけません。

課題 次の文を読んで設問に答えなさい。

木村さんがりんごの自然農法に挑んだのは、三十年前、まだ二十七歳の若い頃<sup>ころ</sup>だった。夫婦で八百本のりんごの木を育てていた。りんごの木は病虫害にやられやすいので、農薬を噴霧車を使って撒布<sup>さんぷ</sup>していたが、霧状になった農薬は自分にもかかってくるので、夫婦とも葉害のひどい皮膚炎に苦しんだ。

こんなことをしていたら命にかかわると思った木村さんは、自然農法の本を頼りに、農薬も化学肥料も使わないでりんごを栽培することを始めたのだ。ところが、みごとに失敗。害虫にやられたうえに病気で無残に葉が枯れてしまったのだ。二年目も三年目も失敗。三人の娘をかかえて、経済的に困窮し、まともな食事もできなくなっていた。周囲からはあざ笑う声も聞こえてきた。

五年目、木村さんは死のうと思って、岩木山中に入った。森の中を進むうちに、不思議なものを見た。りんごの木が一本、葉を虫にも病気にもやられずに立っていたのだ。こういうのを「<sup>(1)</sup>意味のある偶然」と言う。それはりんごの木ではなかったことが後でわかるのだが、その時はなぜだと思って、周囲の土壌を調べてみた。土壌は手で掘れるくらい柔らかく、空洞になっているところもあり、雑草も木も根が実によく張っている。木を支えるのは、根だ。りんご畑の土壌は重量のある大型噴霧車の車輪で踏み固められている。雑草もない。それではりんごの木は本来の生命力を奪われているに違いない。そうだったのか。  が見えた。

まともな弁当も持たせることのできなかった娘たちも、途中でやめたら、自分たちは何のために我慢してきたの、と言って、父親の背中を押した。

りんごの木に花が咲き実がなったのは、八年目だった。そして、その後、年ごとにすばらしい実が収穫できるようになっていったのだ。土壌を自然のままに柔らかくするために、噴霧車を使うのをやめた。害虫予防には、米などを発酵させて作った酢を手作業で噴霧した。年中畑を見回って、害虫が増えると、すぐに手作業で退治した。これといって驚くような新技術を開発したわけではなかった。すべて手作業でやることばかりだから、効率主義には反するし、重労働を自分に強いることになる。しかし、そこが重要なところなのだ。木村さんは自分で見出した自然農法の信念を貫く。大切なことは、りんごの木一本一本を命あるものとして愛情をこめて守ってやるという姿勢なのだ。

木村さんが語る言葉は、一つ一つが現代の技術文明の思い上がりや切り捨てた大事なものを突いていて、はっとさせられるのだ。

「(りんごの木や実を) 育てるんじゃない、育つのを手助けするだけだ」

「(八年目にはじめて花をつけたのは) 私が咲かせたんじゃない、りんごが頑張ったんだ。りんごの木に『よくやった、よくやった』と酒を撒いてやった」

「(噴霧車で土を踏み固めることに対して) りんごの木も土もいやがってると思う。いやがることはしないほうがいい」(八百本のりんごの木に酢をかけるのに、手作業だと三日かかる重労働だが、噴霧車を使うと一時間半でできるという)

「技術は心が整った後からついてくるものだ」

そして、りんごの実をもぐ時に、何度となく繰り返される「よくやったね」という称賛の言葉と「ありがとう」という感謝の言葉。

私は、命がけで無農薬農法によるりんごの栽培を成功させながら、収穫するりんごに対し、絶えず「ありがとう」を連発する木村さんの心の持ち方に、深い感動を覚えたのだ。

「天地への感謝」と言おうか。現代の技術文明の大きな忘れ物あるいは欠陥は、この「天地への感謝」の気持ちだろう。

二年ほど前だったか、あるローカルラジオ局の番組で、聴取者からのたよりを紹介する中に、小学生の子を持つ母親からの意見があった。「学校給食で給食費を払っているのに、食べ終えた後に『ごちそうさまでした』とお礼を言うのはおかしい」というのだ。

この意見の「おかしさ」を、投書者自身が「おかしい」と思っていないところに、今の時代の「おかしさ」がある。そんなことを言う母親は問題外だと言って、笑い事で済ますなかれ。そういう意見が出てくる<sup>(2)</sup>時代的な素地があるのだから。

この投書者の意見には、<sup>(3)</sup>二つの問題がある。(中略)

この母親の例をここに取り上げたのは、B という時代相を端的に示そうと思ったからだ。無農薬でりんごを栽培している木村さんの感性のすばらしさは、どんな時代であっても失ってはならない大切な「心の習慣」と言える。(中略)

木村さんの感性がどこで育ち身についたのかは、私自身は木村さんに会っていないのでわからない。ともかく、りんごの自然農法を成功させたことの根源に、木村さんの感性の豊かさが決定的に重要な役割を果たしたことは確かだ。

— 柳田邦男 『気づき』の力 生き方を変え、国を変える』  
より一部改変して引用

設問 1. 下線部(1)について、「意味のある偶然」とはどういうことをいっているのか。著者の考えを 50 字以内で述べなさい。

設問 2. 下線部(2)について、どのような「時代的な素地」が考えられるか、150 字以内で述べなさい。

設問 3. 下線部(3)について、著者の考える「二つの問題」を 200 字以内で考察しなさい。

設問 4. 空欄 、 に入る適切な語句を、それぞれ 5 字以内で答えなさい。

設問 5. あなたが大切にしている「心の習慣」について、具体的な事例を挙げて 300 字以内で述べなさい。